

# 第3学年 国語科学習指導案

令和7年5月28日(水)

場所 3年3組 30名

## 1 単元名 まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう

教材名 「こまを楽しむ」

## 2 目標

本単元では、「感想を話す」という言語活動を行い、文章の内容を捉えて自分の考えや感想を述べられる力を養う。また、感想を交流することで自分とは違う視点から文章を読み深めていき、読み取ったことについて話したり書いたりする力を育てる。

## 3 評価規準

- 段落の役割について理解している。(知識・技能)
- 全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(知識・技能)
- 「読むこと」において、段落の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(思考・判断・表現等)
- 「読むこと」において、目的を意識し、中心となる語や文を見つけている。(思考、判断、表現等)
- すすんで段落の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って説明する文章を読んだ感想を伝え合おうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

## 4 単元について

本単元では、段落とその中心を捉えて読む力を培うために、「文様」や「こまを楽しむ」を教材とし、感想を伝え合う言語活動を設定する。児童はこの単元で初めて「段落」の意味や関係について学ぶことになる。二つの教材の「文様」、「こまを楽しむ」は同様の構造である。「文様」は「こまを楽しむ」の練習教材として位置付けられている。見開きで全文を見渡すことができ、身近な服の文様についての事例が紹介されているため理解しやすく、文章構成や内容がシンプルである。本単元における中心的な指導内容である「段落」「文章構成」「中心」などについて理解しやすいと考える。「文様」で学んだことを基に、「こまを楽しむ」では、段落の関係を理解し、内容を読み深めていく。

## 5 児童の実態

「こまを楽しむ」は、3学年になって初めての説明文教材である。2学年では、「すみれとあり」を順序や理由に着目しながら学習した。順序を追って読む力は2学年で培ってきたため、本単元では「段落」を意識し、「初め」、「中」、「終わり」ごとの内容や関係を捉えさせたい。

本学級では、多くの児童が学習に一生懸命取り組む様子が見られるが、内容の理解度には差がある。そのため、全員が何を思考し、どのように活動するのかを理解させながら、一人一人が主体的に学習できるようにやり方を示す。また、友達と考えを交流することを通して、どの児童も自分なりの考えをもちつつ、より深く内容を理解できるようにしたい。

## 6 研究の視点（子供の思考を促す教員のはたらきかけ）

### {A 主体的に取り組める学習課題の設定}

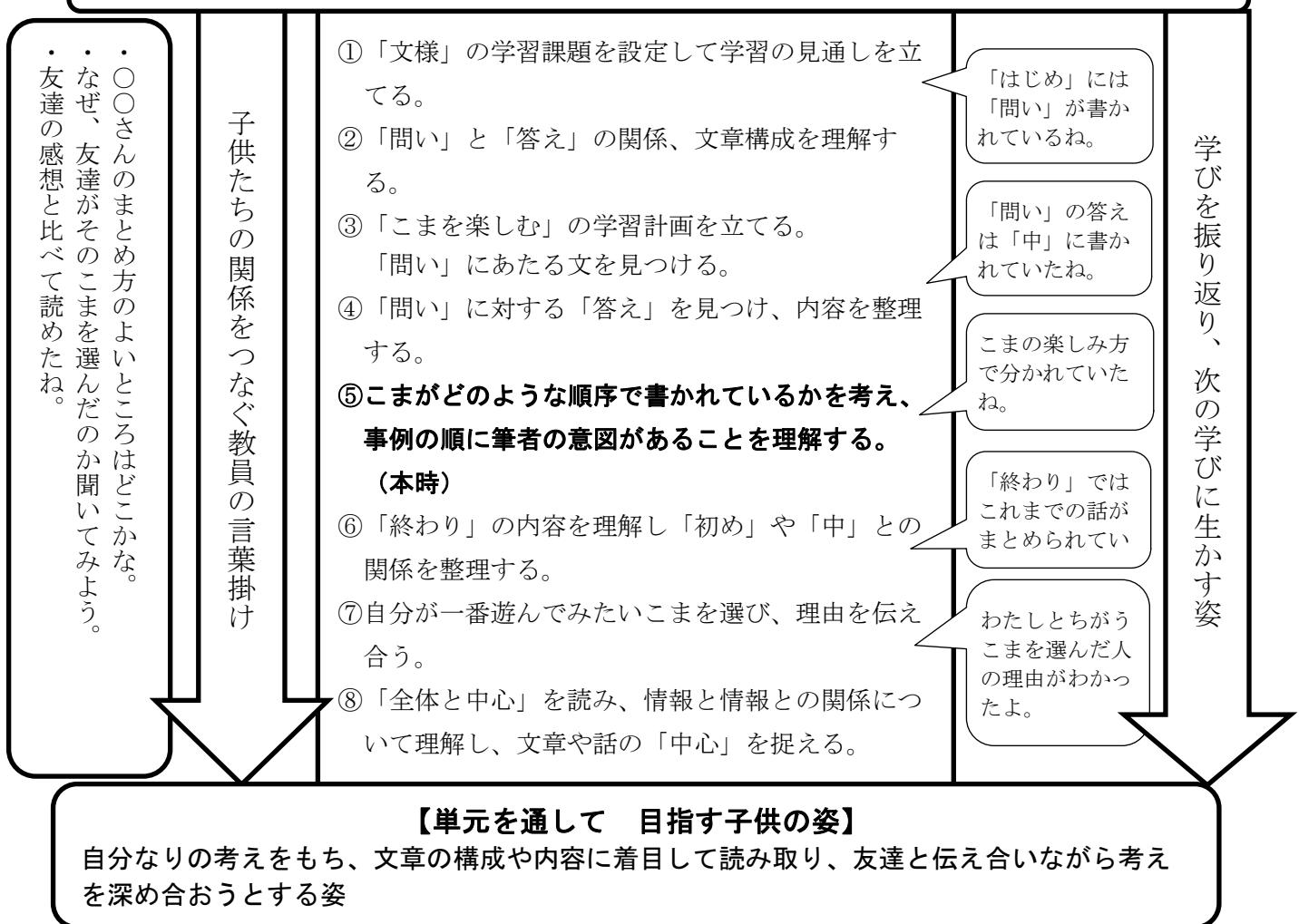
- ・こまの種類や特徴を比較する際に、1枚の学習シートに内容を集約し、比較しやすくする。
- ・「教科書に出てくるこまの順序にはどのような理由があるのか。」という課題を明確に示し、班での話し合いが活発に行えるようにする。
- ・学習計画と振り返りが一見して分かるようなカードを作成し、児童自身が「今日は、これができるた。」「次は、こうしよう。」など、自らの学びを把握し、次につなげられるようにする。

### {C 一人一人のよさを引き出す学び合いの充実}

- ・児童が、「中」の段落を、2つのまとまりに分ける活動を行い、班で話し合う時間を設ける。友達と話し合う時間を十分に設けることで、様々な考え方を知ったり、考えを深めたりする。

## 7 単元構想（8時間扱い 本時5／8）

### 【単元を貫くめあて まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう】



## 8 本単元における、主体的に考え、共に学び合う子供の姿

本単元における、「主体的に考え、共に学び合う子供の姿」とは、教材文から読み取った内容を自分の言葉で分かりやすくまとめたり、伝えたりしようと工夫し、自分と友達のそれぞれの考え方のよさや違いに気付いて見直そうとする姿であると考える。まずは自分一人でしっかりと思考し、考えをもたせることを大切にする。その後、友達と交流する時間を確保することで、よりよいものにしようと取り組めるようにしていきたい。

## 9 本時の目標（5／8）

- こまがどのような順序で書かれているかを考え、事例の順に筆者の意図があることを理解することができます。

## 10 学習過程

	○学習活動 ・ 内容 T : 教師の発問 C : 児童の反応	・ 指導上の留意点 ◇評価規準（評価方法） ★研究の視点
導入	○前時までの振り返り ・前時までに学習した「はじめ」、「中」の段落の内容について振り返る。	・ノート及び教室掲示物を活用する。 ・一文めはこまの種類と楽しみ方について書かれていたことを振り返る。
展開	○「中」の二文めの読み取り ・各段落の二文めに書かれていることを知る。 ・二文めに罫線を引く。 ・三文め以降は何が書かれているか考える。 C : こまの名前が書かれています。 C : こまの様子が書かれています。  ○めあての把握	・教師が範読し、教科書のそれぞれの文に赤で罫線を引かせることで、二文目に注目させる。 ・二文めには「つくり」について書かれていることを確認する。
	○音読を通した内容の読み深め ・教師と交代読みする。	・「中」の内容をもっとよく知るために読み直す必要があることを児童に意識付けさせる。 ・児童が一文めを読み、教師が二文めを読む。交互に丸読みをする。
	○「中」の段落を二つに分ける（本活動） ・ワークシートを配布し、段落を二つのまとまりに分けて考える。 ・個人→班→学級全体の順で思考し、話し合う。 T : こまの登場順には意味がありますか。 C : 人気順かな。 C : 有名順かな。  ○考えの全体共有 ・話し合ったことを学級全体で共有する。 C : 回っている様子で分けられています。 C : こまを回す楽しみ方で分けられています。	・話し合いがすすまない班には教師が視点を与える。 ◇「中」の段落相互の関係に着目し、叙述を比較したり整理したりする。（記述、発言） ★ワークシートを活用して「中」の段落を1枚にまとめ、見比べやすくなる。 {A主体的に取り組める学習課題の設定} ★友達との話し合いの時間を設けることで、様々な考え方を知ったり、考えを深めたりする。 {C一人一人のよさを引き出す学び合いの充実}  ・発表が行き詰った場合、学級全体に注目させたい話し合いをしていた班を、教師が指名する。
	こまの楽しみ方を二つのまとまりに分けよう。	
まとめ	○学習の振り返り ・振り返りシートに記入する。 ・次時の学習を伝える。	◇学習感想を振り返っている。（ワークシート）
	回る様子と回し方のまとまりで分けられている。	